

令和元年度 第1回定住自立圏共生ビジョン懇談会議事録

【日時】 令和元年7月2日（火） 18時00分から19時30分まで

【場所】 苫小牧市役所 9階会議室

【参加者】 定住自立圏共生ビジョン懇談会委員（14名）

清水 祐一、笠原 健太郎、塚原 光博、加藤 務、小坂 幸司、千葉 勝宏、
丹羽 智久、木村 徹也、吉田 章、内藤 圭子、荒舘 康治、大宮 丈治、田中 弘美、
小林 裕子（欠席：櫻井 裕子、高津 均、高坂 美哉）

苫小牧市

副市長 福原 功、総合政策部長 木村 淳、

政策推進課長 山田 学、課長補佐 佐藤 敦史、主査 上林 孝治、主事 松下 文也

厚真町 まちづくり推進企画調整G 主任 長瀧 夢子

安平町 政策推進課 主査 笹山 陽平

むかわ町 総務企画課 政策推進G 主任 野村 昌史

白老町 企画課企画G 主事 金子 智勇

胆振総合振興局 地域創生部 地域政策課長 水井 啓介

議 事 内 容

(1) 開会

(2) 委嘱状交付式

(3) 委員紹介・事務局紹介

(4) 座長・副座長選任

【清水座長、笠原副座長が選任】

(5) 議事

①東胆振定住自立圏共生ビジョンについて

【資料1から資料7に沿って事務局より説明】

座長）共生ビジョンについては年度ごとに、国のほうに報告する義務があるのですか。

事務局）年度ごとに報告する義務はないが、共生ビジョンについては5か年での改正と数値等に更新があった場合には報告をしています。

②東胆振定住自立圏共生ビジョン変更案について

③意見交換

座長）定住自立圏の共生ビジョンにとらわれず、1市4町で現在の共生ビジョンに無いようなもの

についても共同して取り組めるものや共生ビジョンをこうしたらいいのではないかと
皆さんの意見を実現するかは別として、皆さんからご意見があれば伺いたいと思っ
ております。

委員) むかわ町の災害など、いろいろ福祉に関わって今後の問題点を整理している段階なので、定住自立圏のビジョン懇談会の中で協議をしていただければと、今整理している段階なので、機会あれば皆さんにお話したいと思っております。

委員) 定住自立圏という圏域で情報を結びつけるというのは非常に良いことだと思っております。各委員のほうからもありましたけれども、昨年たまたま大きな災害があったということで、この定住自立圏のネットワークがどのような形で生かされたのか、また足りない所があったのではないかとお聞きしたい所でございます。

事務局) 災害のお話ですが、昨年大きな被害がありまして、私どものほうで現地の調査に行きました。その際に厚真町の方は、被害が大きく、いろんな地域から人が入っておりましたので、そちらはそちらの地区に任せようということで、被害の少なかった苫小牧市と白老町で話し、分担して支援しましょうと苫小牧市はむかわ町の支援に、白老町は安平町の支援に分担して職員を派遣し支援をしたという結果がございます。

委員) 災害の時に、一時的に避難出来る場所というのを、広域的な分野で考えていただければと思います。

委員) 私は職業柄観光分野ということで観光協会に勤めているわけですが、白老町は東胆振と西胆振と両方にまたいで観光の方を広域での連携をさせているところでもございますので、観光に関しては広域でやらせていただいているので特にいいのかなと正直思っているところがございます。先程も災害の話が出ていますので、そちらの方を重要視していただければいいのかなと個人的に思っているところがございます。

委員) 見ていた感想ですけど、1市4町を含めた中で、リサイクルという部分をもっと大きく前に打ち出せばいいのではないかと感じました。リサイクルという部分が盛り込まれると、循環型という部分で循環型社会の実現ができるのではないかと感じました。

事務局) リサイクルという面で言いますと、広域処理という事はやっているのですが、それ以上のことをというご意見だと思いますので、今日は来て居ませんが環境部門にお話を繋いで、1市4町で何が出来るのかということを考えてみたいと思います。

委員) 私は、この広い分野で何に興味があるかということと地産地消です。胆振地域の食の抱負さ、自然の豊かさを、地域住民の方に認識や自覚を活かすということに目を向けて行きたいと思ひ、

そのことを今回勉強できたらと思っています。

委員) 先程、苫小牧市はむかわ町、白老町は安平町に支援し行かれたと聞いたのですが、この支援はいつ頃どの期間まで続くのか聞かせて頂きたいのですが。

事務局) 今は行っていませんが、地震が起きてから数ヶ月は行ってたという状況です。現在は行ってはおりません。

委員) 続けて支援することは考えていないのですか。

事務局) もし、何かしら要請があるのであれば私たちが答えられる範囲で、また、こういった事が足りないので支援してもらえませんかというお話があれば、そこは協力していくという姿勢は常に持っている状況です。

委員) 厚真町はどこ地方が支援に行ったのか、また今後、高校生が精神的な面で回復していないのですが、そういう支援はどのようにうなっているのか聞かせてほしいです。

事務局) 苫小牧市からも、しばらく経ってからですが避難所の物資の配膳の支援に行ったわけですが、その他にも保健師が1市4町の括りではないのですが、北海道全体の保健師の団体の集まりの中から保健師を派遣しておりますが、厚真町には道外からもかなり入っておりますし、北海道からもかなりの人数が入り支援をしていた状況であります。

事務局) 定住自立圏の取り組みの中では、苫小牧市と白老町からは、主に避難所の運営の支援を頂いておりました。今現在は、北海道さんや民間の方からの技術者等を呼んで職員として支援をいただいているところです。

高校生ですとか、教育の面でのサポートというのは、今年度きちんと予算を付けて、心のサポートとして学校と一丸となって傷ついている心を、教育委員会が中心となり取り組んでいますので、そのようなサポートはボランティアセンターもありますので、道外からも支援をいただいているところです。

委員) 感想になってしまうのですが、私の立場、職業柄なのですが、東胆振のブランド力を強化することによって、1市4町の交流人口が外から入ってくる人を呼べるポテンシャルはあるのではないかと思います。

委員) 東胆振観光協会に勤めているわけですが、地域間連携の事業をおこなっているのですが、私はむかわ町に来て7年になりますが、その当時は東胆振圏域の取組みは盛んに行われていて、月1・2回役場の方たちと民間で活動している方と観光協会の方と集まって地域の事情を話し合ったり、勉強する場がすごくあったと思います。ここ最近、役場の担当者が移動

したりすることによって、どんどん活動が小さくなっていき、ここ 2~3 年他の市町村の観光担当者が誰なのか、どういう取組を行っているのかが、わかりずらくなってきているのではないかと考えています。

東胆振の中でも観光協会は法人化になってきていて、広域観光が注目されている中で、どのような取り組みをしているのか、どのような動きがあるのかなど情報共有の場をもっと作っていただきたいと思っています。

たぶん今、東胆振物産展でしかそういう取り組みが行われていないのではないかと考えますので、もっと札幌圏ですとか、道外に向けた情報発信などをするためにも、東胆振地域の観光で動いている方たちと意見交換の場を設けていただきたいと思っています。

事務局) 今ご意見いただきました、東胆振地域での観光面での皆さんの共同した動きですけれども、役所と役場、自治体だけの枠組みになってしまいますが、東胆振地域ブランド存続協議会というのがございまして、1市4町の役場で地域の、例えば白老牛ですとか厚真のハスカップ、地域の特産物のブランド化という部分でいろいろ動いております。

苫小牧市はコトマという施設で、東胆振の特産品を使ったスープなどを提供させていただいたりとか、そのスープを皆さんが普通に購入出来るようにレトルト商品化というのを、一昨年頃から進めているところです。

今年もつい先月、東京の世田谷で東胆振のブランドのイベントを行ったりとか、先週末も安平町に新しく出来た道の駅「D51 ステーション」そちらで東胆振フェアというのも開催しております。

観光協会の方にも一緒に参加していただいて、東胆振全体で盛り上げていく取り組みが出来ればと思うのですが、今はブランド協議会の組織が、役所・役場の括りになっているので、同じような団体で西胆振・日高の日胆振戦略会議の中で、観光協会の皆さまも厚生委員としてお手伝いしていただいて、そういう取り組みを通して、もっと東胆振の魅力を道内・道外に向けて発信出来たらと考えております。

司会者) 今、コメントがありました様に、観光振興というのは地域振興のかなりの大きな力になると思いますので、今後も共生ビジョン等に映させていただければと個人的に思っております。

委員) 私も地産事業所というところでこの場に居るのですが、今おっしゃったように東胆振フェアでしか見えていなかったのが、安平町は道の駅が出来て、圏域のものがそこに行けば買えるとか、そういう連携は出来るのではないかなとか、ウトナイはすごく頑張って色々な物が揃えられているのですけれども、役場がブランド協議会を持っていたり観光協会となかなか一緒にならない所が、外側から見てもどかしいというか、そこが近づく事によって、もっといろんな事が出来るような気がします。

地元には素晴らしい総菜がたくさんあるので、力を集めると大きな発信力になると思うので、一緒にやっていただけるといいなと思いました。

私は家業が農家で、毎年の事ですが鹿とアライグマの被害で大変で切実です。

前回の会議でも言ったのですが、各地域がそれぞれやるのではなくて、皆で力を合わせて鳥獣被害をなくす活動が出来ればと思います。農家にとってはこの被害は本当に切実で、うちでも毎日のようにアライグマが2頭とか檻に入っていたり、サイロをほじくり返されカビが生えたりと大変です。牧草地では鹿が牛の餌を平気で食べていたり、牧草を収穫しても例年の何割とかそういう状況で、ぜひ各地域に猟友会なりそういう活動が有ると思いますが、せっかくの定住自立圏があるんですから、力を合わせてやれたらいいと思います。

事務局) いただいた意見を、鳥獣被害の担当者に伝えて、前向きに出来るよう話をしてみたいと思います。

委員) 初めて参加させていただき、私の仕事は工業交通という形で具体的な取り組みは、資料を見て解りました。大きな枠組みの中でやらないと、私は厚真町ですが人口の減る中、道線を維持していくのは難しく、大きな枠組みの中で地方の交通も維持していけるような取り組みを考えていただければ非常に助かります。

委員) バス事業者として、生活バス路線の維持・確保というのは当然やらないといけない事だと思いますが、先ほどおっしゃった通りバス業界は厳しい状況にあります。ただ、来年には白老町でウポポイの開設という明るい話題もありますので、これが白老町だけでなく、他にも普及することを期待するところです。

司会者) 今、委員からもお話があったように、来年のウポポイ、先日菅官房長官が見えましたけれども、非常に多きインパクトで先程の観光の話では地域を PR するには非常にひとつのなるのではと感じています。

今、皆様方からいただいたご意見につきましては、事務局のほうで検討していただいて、繁栄出来るものについては、繁栄させていただきたいと思います。

(6) その他

(7) 閉会